



やたなか小中一貫校で開催!!

8月25日(土)、2018年度大阪市教職員組合教育研究集会を開催し、100名を超える組合員・市民が、やたなか小中一貫校に集まりました。今年度は6分科会に分かれて、実践報告や実習を行い、意見交換等で深め合いました。全体会では、やたなか小中一貫校の教職員、保護者から取り組みや学校への思いなどの報告があり、また、各分科会から今日の取り組みの報告が行われました。



全体会感想

○学校で開催される良さが感じられました。やたなか小中一貫校の先生方の教育観や地域・保護者の方の話がじっくり聞けたことがとても良かったです。学力を上げることだけが取り沙汰されるのでは無く、足もとから人を育てていくことの大切さを確認することができたと思いました。

○分科会の様子がわかったこと。参加者が集う場があるということで、市教組って大切だと思いました。やたなか小中一貫校の事がよくわかりました。小中連携はどこでもやっていかなければと思いました。

平和教育分科会

本分科会では「エネルギー問題と原発事故 福島の現状から」と題して

発表が行われました。私たちが日々使用する電力について、近年原子力発電の再稼働に向けた動きが活発化しています。しかし、かつてのチェルノブイリ原発事故や、福島での原発事故による放射能汚染が、今なお周辺地域に悪影響を及ぼし、解決の糸口を見いだせていない現状です。その事から、エネルギーを生産する側だけでなく、消費する側も含めた効率的なシステム構築に向けた新たな動きが必要になり、学校教育がその部分にどう関わっていくべきなのかを考えさせられる機会となりました。



在日朝鮮人教育分科会

南住吉小学校分会の中元さんからの報告でした。バケツ稲の実践から植物の命、動物の命、そして人間の

命から絵本「ひめゆり」を使った反戦学習につなげました。

そしてもう一つは、米を食べる文化で、朝鮮半島にも目を向け、朝鮮の文化を知る。韓国・朝鮮の文化にふれる。遊び、学び、食べるから「コリアタウンへようこそ」の実践を行った報告でした。実践者のおもいの中に、在日朝鮮人問題は日本人が作り出した問題で、日本人が行っている差別なので、5年生では必ず取り上げるようにしているとの事です。

実践者のもう一つのねらいは、まわりの若い先生にもこの実践で学んでほしいという思いです。「知らないという無知が差別や偏見を生んでいる」という言葉が心に残った実践でした。



ジェンダー平等教育 分科会

当事者であるこいけけいこさんを招き、LGBTについて学びました。LGBTは、13人に1人と言われるくらい身近にいるにもかかわらず、出会った経験がない人と言う人が多いです。そのことから、自分のことを安心して話せない現状があることがわかりました。LGBTの子どもたちが何に悩み苦しんでいるのかなど、資料やご自分の体験から教えていただきました。また、グループワークで色々なケースについてどう対応するのか話し合い交流しました。実際同じようなケースに出会った人もいて、遠からず学校で直面していく課題であると感じました。さらに、4年生での実践報告、支援や取り組みの提案、明日からできることなどが紹介されました。いろいろな立場の子どもたちが「わたしはここにいるよ」と言える学校に社会にしたいと改めて思う学習でした。



特別分科会 (音楽)

声量・音程・ハーモニーなどの歌唱要素から指揮に視点を移して、歌唱指導をとらえてみました。子どもたちの前でかっこよく指揮をしている姿を思い描きながら、「たたき」と「しゃくい」2種類の指揮法を学びました。拍を打つだけの指揮ではなく、どう歌いたいのか、どう歌わせたいのかを意識して腕の振り方を工夫すれば、歌の表情が変わることを体感することができた分科会でした。



特別分科会 (道徳)

特別分科会2は「特別の教科道徳」をどう取り組むかをテーマに行いました。常盤小分会の中川さんの実践等の取り組みを提案していただき話を進めました。はじめに参加者に道徳についてどのように考えているかをアイスブレイク的に行いました。その次に道徳の内容項目(22項目)について必要な資質はどれかをグループごとに話し合いました。どのグループも「必要」というよりも「不必要(これははずしてもいいのではないか?)」という意見が同じように出ていたのが印象的でした。

大阪市では道徳に取り組むにあたって“こうあらねばならない”というような雰囲気がありますが、決してそうではなく地域や児童の実態に合わせた取り組みをできる、ということを組合の教研活动として情報交換できるように取り組んでいきたいと思いました。



特別分科会 (木版画)

昨年の「紙版画」に続き「木版画」の指導法について学びました。

過去の子どもの作品を鑑賞しながら、それぞれの彫り方の特徴についても知ることができました。1年間にせいぜい1つの版画作品を完成させる事しかできませんが、「大きな」作品ではなく、ハガキ大の「小さな」作品を2つ作るなどの工夫もできるとのこと。

失敗のない刷り方も教えてもらい暑い中だが充実したときをすごしました。

